



大樹の礎

Taiju no Ishizue

Interview

”チーム教育“と”環境の整備“で 次なる10周年に向けて飛躍を目指す

学長 新藤 博明



新藤博明学長

今年度、新たに学長に就任した新藤博明学長にインタビューを行いました。

”チーム教育“を実践し 次なる10年の発展を目指す

—今年度の抱負をお聞かせください。

学長 これまでの10年が大学としての創立期であれば、次なる10年の確立期に向けたスタートが今年度だと感じています。おかげさまでこの10年間、医療従事者として活躍する多くの卒業生を輩出してきました。今後、本学のさらなる発展を目指す上では、専門職として医療現場で活躍できる人材を育成するという本学の特徴を、より前面に押し出していききたいと考え

ています。

—そのための取り組みはございますか。

学長 取り組みの一つは”チーム教育“です。昨今の医療現場では”チーム医療“の必要性が叫ばれています。さまざまな専門職が医療に携わっている中、一人の患者様に対してそれぞれの専門職が連携することで、医療の質の向上を目指していくのが”チーム医療“です。本学では”チーム医療“の考えの基、教職員が一丸となって一人一人の学生と向き合い、サポート体制を強化していきます。

—具体的にお聞かせください。

学長 例えば、担任が学生から学習内容の不明点や大学生活について相談を受けた場合、担任も親身になって解決に努め、その問題解決をする担当の教職員へ紹介する際にも、状況を詳しく説明するなど連携を図ります。

学生の相談事を速やかに、的確に解決することが狙いではあります。このような体制を確立することによって、「誰に相談すれば良

いか分からないときでも、まずは身近な教職員に相談すれば解決してもらえる」という認識を学生に持つてもらえます。教職員の誰もが学生に対する相談窓口となり、互いに連携を図る”チーム教育“を目指していきます。

学業以外にも力を入れ 人間性を育む環境を整備

—現在建設中の体育館棟と学生会館棟が10月末に完成予定です。施設の充実についてはいかがでしょうか。

学長 体育館棟の新設により体育関連科目が拡充されるほか、クラブ・サークル活動も盛んになると期待されます。学生会館棟は、教室や食堂、中庭などに続き、学生同士が交流を深める新たな拠点となるでしょう。

—高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた医療従事者を育成していく上で、人間性を育む拠点になるということでしょうか。
学長 私は学生諸君に格好良く

なつてほしいと考えています。本学で学ぶ目的は医療従事者になることです。成績が良い格好良さもありますが、実習等で先輩方が格好良く働く姿を見られる機会があると思います。自分がその格好良い、将来あるべき姿をイメージしながら学業に励めば、より大学生活も充実するでしょう。

また、学業のほかにもクラブ・サークル活動で活躍する、あるいはボランティア活動や国際交流に積極的に取り組むことも、格好良さの一つだと思います。学業以外にも活躍すれば学生の居場所はさらに広がり、そこで周囲にある格好良いを見つけ出し、努力する。そして、人間として成長してもらいたいです。

—成長のきっかけや場を作ることが本学の役割の一つだと感じます。

学長 最初から格好良くなって、本学に通う4年間で少しずつ自分を磨けば良いのです。実際、卒業生は入学した頃よりも見違えるほど大人びて、格好良く成長しています。学生諸君は、本学で自分磨きに励んでもらい、保護者の皆様にはそれを支えてほしいと思います。

平成
28年度

国家試験を
終えて

今年度の対策と学生・保護者の皆様に
向けてのメッセージ

お願い申し上げます。

保護者の皆様、学生、教職員が
一丸となって国家試験合格を目指す

診療放射線学科 学科長 桑山 潤

平成28年度診療放射線技師国家試験の本学合格率は、全国平均を上回りました。国家試験の合格率は、年によって20%程度変動するほど大変不安定なものですので引き続き学力の底上げに努め、難易度の高い年においても十分対応できる学生の育成を目指したいと考えています。

近年、診療放射線技師の役割はより重要になってきており、それにつれて国家試験も年々難しくなる傾向にあります。受験は保護者の皆様のご協力があることより良い結果に繋がると言われておりますが、教職員も自分の身に接するように日々全力で指導に努めています。保護者の皆様、学生、教職員が一丸となり諸問題に立ち向かえるよう、これからも保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、謹んで

1年生から専門基礎を積み上げ
臨床実習では積極的に経験を積む

リハビリテーション学科

理学療法学専攻 専攻長 伊藤 芳保

平成28年度理学療法士国家試験では、県内でもトップレベルの成績を残すことができました。平成29年度为国家試験対策は昨年度と同様に基礎知識の向上・維持を図り、国家試験と臨床実習を意識付けするために1年生から「専門基礎に関する校内模擬試験および全国模擬試験」を実施、学生自身の積み重ねた学力状況が全国レベルで分かるようにします。

国家試験は、専門的知識が問われる一般問題と臨床的応用力が問われる実地問題から構成され、臨床実習の経験と臨床に対する応用が重要になります。実地問題は、臨床実習で学ぶことが多いものばかりです。臨床実習

では受け身にならず、ぜひとも積極的に多くの体験を積んで頂きたいと思っております。

時には、勉強してもなかなか成績が伸びずに悩むこともあると思います。

しかし、地道に続けることで必ず報われる時がやってくると思います。

平成29年度は教職員一丸となって全員合格を勝ち取りたいと思います。これから保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

4つの課題に全力で取り組み
国家試験合格を目指す

リハビリテーション学科 学科長 兼

作業療法学専攻 専攻長 本田 豊

平成28年度作業療法士国家試験を踏まえて、平成29年度为国家試験対策は、次の4つを課題として全力で取り組みたいと考えています。

まず1つ目は、国家試験学修の仕方

新任教員の紹介



看護学科 教授 真野 響子



看護学科 教授 石綿 啓子



看護学科 教授 藤川 君江



臨床工学科 教授 落合 晃



臨床工学科 教授 石田 等



理学療法学専攻 准教授 岩坂 憂児



看護学科 准教授 高倉 裕美子

の正しい理解から、学修をスタートさせること。

2つ目は、国家試験合格に向けた個人の学修計画立案と継続的な実行を支援すること。

3つ目は、国家試験に合格するために必要な知識や解答を導き出す能力を獲得できるまで、繰り返し分野別学修の支援を行うこと。

そして最後は、分野別学修を総合し、本番を想定した実践的トレーニングで目標を達成させることです。

今後より一層、教育活動の向上に努めて参ります。これからも保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

「あきらめない覚悟をはじめ4Jの」で国家試験合格を目指す

臨床工学科 学科長 中尾 教伸

平成28年度臨床工学科士国家試験の合格率は、全国平均を上回りました。学生の皆さんが最後まで諦めずに努力した結果だと思えます。臨床工学科士の国家試験は、医学、工学、医療機器の分野と広い範囲から出題されます。対策講座や模擬試験の実施とともに、学

生によって異なる不得意分野や性格を考慮して、少人数での補習や課題、また知的好奇心や意欲を湧かせる配慮など、きめ細かな指導を行っていきます。

国家試験のための日々の勉強を支える源は、臨床工学科士になりたいという意志です。4年生は前期の実習を通してその思いをさらに強くしています。教職員も学生一人一人の意欲を大切に、来年3月の国家試験に向け全員合格を目指して取り組んでいます。学生の皆さんは、最後まで絶対に「あきらめない覚悟で、他人を「あてにせず、自分の力で「あ」わてず着実に勉強する、たとえ思うように学力が上がらなくても「あ」たまにこない、そんな4つの「あ」で国家試験合格を目指してください。

教職員も学生の指導・サポートを通して共に乗り越えていきたいと考えていますので、これからも保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

国家試験合格に必要なことは、**忍耐強く学習する不断の努力**

看護学科 学科長 森田 恵子

平成28年度看護師国家試験の問題は、長い状況説明文の設問が増加し、それぞれの状況を読み解き・分析し、判断できる能力が必要であったと考えます。また、10年以上前の良問といわれる問題も出題されてきました。そんな難易度が高い中での本学の合格率は、全国平均を上回り、学生が大いに健闘した結果であると思えます。

平成29年度の国家試験対策は、過去の問題への対応、さらに長文に慣れることについて対策を講じていきたいと思えます。また、社会の出来事に関心を持つこと、読書をすることもぜひ勧めていきたいと思えます。しかし、最も重要なことは実習での経験です。実習での患者様に接する機会、ディスカッションをする経験を重要視したいと思います。

大学における専門的な学習は、決して容易ではありません。このため、忍耐強く学修する不断の努力が必要です。学生は大きな可能性を秘めています。その力を発揮し資格を得るためには、保護者の皆様のサポートが必要です。これからも保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



医療・基礎教育科 助教 山崎 真



医療・基礎教育科 助教 滑川 巨希



看護学科 助教 久松 桂子



看護学科 助教 服部 溪子



看護学科 助教 亀田 芙蓉



看護学科 講師 風間 みえ



看護学科 講師 柳田 徳美

ご卒業330名・ご入学373名、おめでとうございます!

2016 Graduation Ceremony



平成28年度 学位記授与式

3月10日、川越プリンスホテルにおいて、平成28年度学位記授与式が盛大に行われました。卒業生数は、診療放射線学科82名、理学療法学専攻79名、作業療法学専攻41名、看護学科89名、臨床工学科39名の合計330名にのびりました。

開式の辞、「君が代」斉唱、学位記授与、学生表彰が終わると、新藤宣夫学長(当時)が「卒業生の諸君はこれから社会に出て、さまざまな難題に立ち向かっていきますが、これからも本学との絆は続きます。教職員、先輩、同級生は支援を惜しみませんので、自信を持って明るい未来を切り開いてください」と式辞を述べました。

副学長(当時)は「卒業生の諸君は入学式から今日に至るまで著しく成長してきたと確信しています。自ら選んだ医療職への第一歩を踏み出すわけですが、学業と人間形成の両面で十分に準備が整いました。どうか大きく羽ばたいてください」と卒業生へエールを送りました。

卒業生代表で謝辞を述べた臨床工学科の佐藤剛史さんは「臨床の現場で学んだことは医療従事者としての基礎であり、私たちはまだスタート地点に立つたばかりではありませんが、今後はこの基礎知識をさらに実践で役立つものとしていくよう努力していきます」と宣誓しました。卒業生は新たな門出を迎え、希望で目を輝かせていました。

<平成28年度卒業生受賞者>

- ◎**診療放射線学科**
 - 学長賞 平井友美華
 - 埼玉県診療放射線技師会 会長賞 五十嵐弘樹
 - 埼玉県診療放射線技師会 奨励賞 栗原 捺希
- ◎**理学療法学専攻**
 - 学長賞 浅田ベルツ
 - 日本理学療法士協会 優秀賞 楠 紳太郎
 - 全国リハビリテーション学校協会 優秀賞 堀ノ内春花
 - 理学療法科学学会 優秀賞 中田 一也
- ◎**作業療法学専攻**
 - 学長賞 友部 円香
 - 日本作業療法士協会 優秀賞 安達 明完
 - 全国リハビリテーション学校協会 優秀賞 秋山 知世
 - 埼玉県作業療法士会 会長賞 島崎 鼓美
- ◎**看護学科**
 - 学長賞 高橋 夏帆
 - 日本私立看護系大学協会 会長賞 山下友理子
- ◎**臨床工学科**
 - 学長賞 佐藤 剛史
 - 日本臨床工学科士会 会長賞 向井 美咲
 - 日本臨床工学科士教育施設協議会 代表理事賞 谷川 和泉

開催日:平成29年3月10日(金) 開式:午前11時
会場:川越プリンスホテル(川越市新富町1-22)

2017 Entrance Ceremony

平成29年度 入学式

4月3日、川越プリンスホテルにおいて、平成29年度入学式が開催されました。診療放射線学科99名、理学療法学専攻87名、作業療法学専攻43名、看護学科93名、臨床工学科51名、合計373名が、入学の認証を受けました。

新藤博明学長は「大学生活では国家資格取得のための勉学に加えて、友人や先輩との交流、クラブ・サークル活動や社会活動、国際貢献活動などに積極的に努め、充実した時を過ごし、豊かな人間性を磨いてください。人間として大きく、あらゆることを吸収できる人間となるように心がけてください」と式辞を述べました。

親、家族、社会からさまざまな恩恵を受けていることを感じ、その恩に報い、常に感謝する気持ちを持った有為な人材を育てるというものです。医療従事者として勉学はもちろん、人間形成にも励んでください」と激励しました。

新入生代表として壇上に登った理学療法学専攻の梶井雄生さんは「私たち新入生一同は、本学の学生として新たな旅立ちに、身の引き締まる思いと、希望、期待で心躍る心境です。将来、立派な医療従事者を目指し、また、本学の学生として輝かしい足跡を残せることができるように、研鑽と努力を重ねることを誓います」と宣誓しました。保護者の皆様の温かい眼差しに見守られ、新入生は大学生活の第一歩を踏み出しました。



開催日:平成29年4月3日(月) 開式:午前11時
会場:川越プリンスホテル(川越市新富町1-22)